

# 園児・児童・生徒による循環型防災教育の推進

自治体名

北海道標津町

人口（R6.9.30現在）

4,807人

## 取組のキーワード

■ 地域循環型

■ 学校教育

■ 防災意識向上

地域計画の履歴

令和2年5月 作成  
令和5年6月 改定

取組のカテゴリ

想定災害 災害全般

取組主体 行政職員

地域住民

施策分野 防災教育等

リスクコミュニケーション

人材育成

## 取組の概要・ポイント

### 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- ✓ 人的被害を最大限抑制するためには地域住民が自ら災害に対する準備を実践していることが重要であると考え、防災講話や訓練の必要性を感じていたが、多くの地域住民の参加が見込めず、防災意識の底上げに課題があった。

### 取組の内容

- ✓ 地域住民の防災意識の底上げのため、地元高等学校と行政の連携により、視察研修などを通じて高校生を防災教育の担い手として育成し、当該高校生を主体とした実践的な出前講座を小中学校へ展開した。

### 取組と地域計画の関係

- ✓ リスクシナリオ「1-7 情報伝達の不備・途絶等による死傷者の拡大」に対する脆弱性評価の結果として、「防災教育の推進に向けては、住民、高等学校、研究機関、大学などの関係機関と連携し、多様な担い手の育成を図るとともに、住民の防災への知識・意識の向上を図る必要がある」と防災教育推進や本取組の必要性を記載している。

### 今後の展開予定

- ✓ 本取組は、高校生から防災教育を受けたこども園の園児が防災リーダーとなる高校生に至るまでの約10年間を取組の1サイクル（循環）と定めているため、10年間継続して取組を実施することが最低限の目標である。

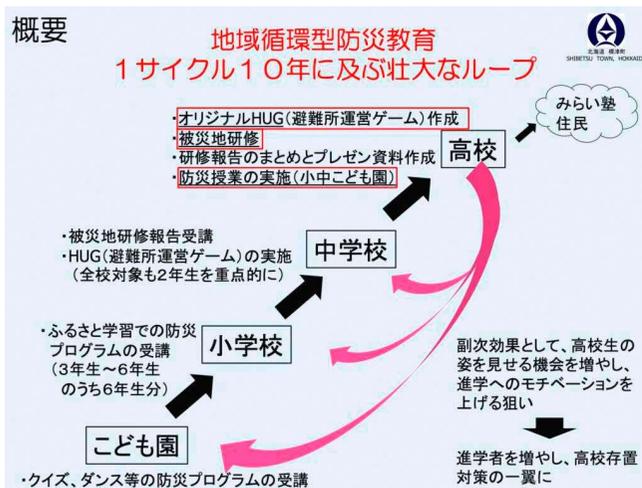
## 1 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 標津町は北海道の東部沿岸に位置しており、千島海溝や標津断層帯由来の地震災害リスクに対応するため、計画的なハード対策を進めている。
- 人的被害を最大限抑制するためには、ハード対策だけでなく地域住民が自ら災害に対する準備を実践していることが重要であると考え、防災講話や訓練の必要性を感じていた。
- しかし、防災講話や訓練は既に防災意識の高い住民が参加者の大半を占める傾向にあり、普段町のイベントに参加しない町民など、全体としての防災意識の底上げが課題であると感じていた。
- そこで未来を担う子供が集う学校教育の場を活用して、防災意識の底上げを図ることとした。

## 2 取組の内容

- 始めに、地元の高校生を対象に被災地（岩手県釜石市や宮城県石巻市）での視察・研修を実施し、防災リーダーとして講師育成した。
- 防災リーダーとなった高校生には、地元のこども園や小中学校での出前講座に講師として参加してもらい、振り返りによる研修内容の定着と園児・児童・生徒への防災教育の展開を図った。
- 出前授業を受けたこども園の園児が、高校生になった際に新たな防災リーダーとなる循環を促し、高い防災意識を持った人材を持続的に確保する。これを地域循環型防災教育と定義し、長いスパンで地域全体の防災意識向上を目指している。
- 高校生の防災リーダーの育成とその後の活躍は大人の防災意識も刺激し、町全体の防災意識向上に繋がりはじめている。

### 地域循環型防災教育の概要



### 被災地研修の様子



### 出前講座の様子



### 3 取組と地域計画の関係

#### 【地域計画における記載】

- 令和3年4月策定の標津町強靱化計画では、リスクシナリオ「1-7 情報伝達の不備・途絶等による死傷者の拡大」に対する脆弱性評価の結果として、「防災教育の推進に向けては、住民、高等学校、研究機関、大学などの関係機関と連携し、多様な担い手の育成を図るとともに、住民の防災への知識・意識の向上を図る必要がある」と防災教育推進や本取組の必要性を記載している。

### 4 今後の展開予定

- 本取組は、高校生から防災教育を受けたこども園の園児が防災リーダーとなる高校生に至るまでの約10年間を取組の1サイクル（循環）と定めているため、10年間継続して取組を実施することが最低限の目標である。
- 防災リーダーとして育成した高校生が高校卒業後に進学や就職等で町外に移住してしまうことが新たな課題であり、高校生が得た学びや知見を地域社会に広げ、還元するサイクルを新たに検討中である。

### 参考 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- この取り組みにより、講師役の高校生が「災害に対し本当に必要なことは何か」をきちんと気づいてくれて、それを小中学生・園児へ真剣に伝えてもらっていることが何より心強い。（町危機管理室職員）
- 各園児、児童、生徒等の発達段階に応じて、高校生がどのように表現すれば伝わり易いかを考え、実行している。受け手の園児、児童、生徒は、内容を理解し、防災意識を高めるだけでなく、高校生に対する尊敬や憧れの念を抱くことで、地域での循環が加速しており、このようにふるさとに誇りをもてる環境づくりを支援できることを光栄に感じている。（学校間の調整を行う生涯学習課職員）